

授業にピタッ！とデジタル教科書

こんな実践
あんな実践

歴史

③ 近代の学習でのデジタル教科書活用例

～社会的事象の因果関係について考える活動を充実させるために～

中野区立中野東中学校 主任教諭 中濱 佑太(なかはま ゆうた)

◆**単元名**：第5章 日本の近代化と国際社会 5節 近代の産業と文化の発展

「②近代産業を支えた糸と鉄」(教科書 pp.196-197)

◆**本時の目標**：

日本では19世紀の末に製糸・紡績などの軽工業を中心に産業革命が進み、資本主義が確立したことや、20世紀に入って重工業も発達したことを理解するとともに、工業化の進展が都市や農村の生活にもたらした影響について考察する。

《**本時の展開例**》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 5節の問いを提示する。 【問い】近代化は、人々の生活や文化にどのような変化をもたらしたのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 4節までの学習や、既存の知識を根拠として予想させる。 特に産業、文化に着目させるために、p.196資料①で示された会社を設立した渋沢栄一を紹介し、生徒の関心を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> p.196 資料①や渋沢栄一の顔写真、新しい1万円札のデザインをスクリーンに提示する。
展開 (40分)	本時の問い：日本の近代産業は、いつごろ、どのように発展していったのだろうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> p.196 資料②のグラフから、19世紀末以降に発展した産業を大まかにとらえる。 p.196 資料③と p.162 資料②のグラフを比較し、19世紀末の輸出入品の特徴を考える。 日清戦争後に重工業が発展した背景と影響について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 軽工業、重工業がそれぞれ大きく発達した時期を読み取らせる。 生糸や綿製品が明治時代の重要な輸出品であったこと、産業革命が繊維工業から始まっていったことを確認させる。 「鉄の生産はいつごろ大きく増えたのか」「なぜ、その時期に生産が伸びたのか」と問い、戦争や鉄道網の発達と日清戦争の因果関係に気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> p.196 資料②をスクリーンに拡大し、凡例ごとに提示する。 p.196 資料③と p.162 資料②のグラフを並置して提示する。 p.197 資料⑤を拡大し、凡例を操作して鉄道網が広がる様子を提示する。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習をまとめ、節の問いに対する振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 工業化の進展による光の面を確認するとともに、イギリスの産業革命が社会に与えた影響を想起させ、次時の予告につなげる。 	

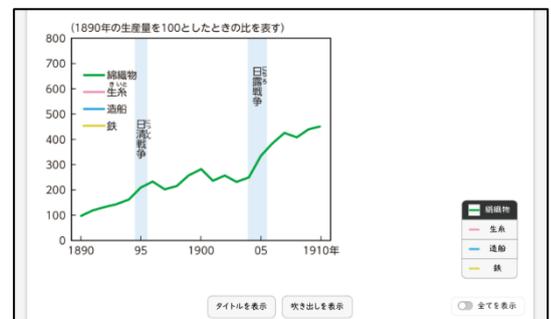
◆指導にあたって：

○本単元では、明治時代以降、特に日清戦争前後の産業の発達を扱う。産業の発達については、中世以降の各時代で取り扱う内容であるが、それぞれの時代背景との関連をとらえさせたり、生徒の生活経験と結びつけたりすることが難しく、具体的に想起させにくい。本単元では、デジタル教科書の機能を用いて、写真・動画資料の提示やグラフの比較を行うことで、明治時代の産業の発達について、具体的なイメージをもたせながら指導を進めることをねらいとしている。

○歴史的な「見方・考え方」を生徒の発達段階に応じて深めていくという視点から、歴史的分野の後半に差し掛かる本単元では、背景・結果・影響など、事象相互のつながりに着目させていきたい。具体的には、20世紀に入ってから日本で重工業が発展していった背景は何か、日本の産業革命の進展が人々の生活にどのような影響を及ぼしたのかなど、歴史的事象同士を結び付け、因果関係について考えさせる。その際、デジタル教科書の資料表示機能も有効に活用したい。

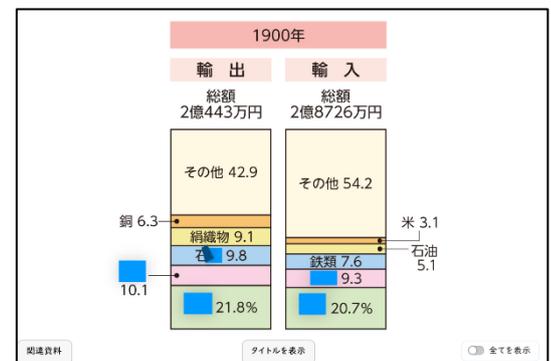
◆デジタル教科書活用のねらい：

○授業の序盤では、p.196 資料[2]を拡大して提示する。このグラフは、凡例ごとの提示が可能である。「四つの産業の中で最も生産が伸びたのはどれだろうか」「戦争の時期に生産量が伸びるものは何か、それはなぜか」といった問いかけを行いながら授業を進めることで、生徒にグラフの形を予想させ、課題意識をもって授業に参加させることができる。



↑ デジタル教科書 p.196
資料[2]「工業の生産量の移り変わり」

○p.196 資料[3]は、拡大するとグラフの品目が隠されて表示される。生徒の反応に応じてはくり紙をクリックして消したり、ドラッグして剥がしたりすることができるため、品目を予想させたり復習させたりすることが可能である。またこのグラフは、p.162 資料[2]の開国直後の「輸出品・輸入品の割合」のグラフと並置することが可能である。これにより、開国から30年あまりで輸出入品の内容が変化したことを視覚的に理解させることができる。



↑ 日清戦争後(p.196)と開国直後(p.162)の輸出品・輸入品の割合を並置した画面

◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

○p.197 資料[4]には、NHK for School の八幡製鉄所の動画へのリンクが掲載されている。八幡に製鉄所が建設された背景について、当時の映像を交えて簡潔にまとめられており、明治時代の重工業の発展について、より具体的にイメージできるものと思われる。

○次時（社会問題の発生）と併せて、日本の産業革命の進展をどのように評価するか、意見交換や討論を行うことも可能である。イギリス産業革命や現代の労働環境改善に向けた動きにもつながる単元であり、この問題について価値判断を行いながら考えていくことは、歴史の学習を通して現代社会について考察する際に大いに役立つと考える。